

第48回名張市地域公共交通会議 議事概要

日時：令和8年2月6日（金）

午後3時00分～3時15分

場所：名張市教育センター 2階大研修室

出席者：(敬称略)

(1) 委員

前川 尚三 (市民公募)

澤田 恭子 (市民公募)

古谷 久人 (地域づくり代表者会議会長)

岡田 美佐子 (名張市老人クラブ連合会女性部副会長)

山根 秀生 (名張市身体障害者互助会事務局長)

中平 恭之 (近畿大学工業高等専門学校総合システム工学科教授)

川北 幸宏 (三重交通株式会社伊賀営業所所長)

酒井 孝祐 (【代理出席】株式会社キタモリ)

前田 敦志 (一般社団法人三重県タクシー協会伊賀支部 支部長)

豊永 育子 (公益社団法人三重県バス協会)

尾上 義文 (三重交通労働組合伊賀支部支部長)

沢西 芳円 (伊賀建設事務所副所長)

稲垣 博 (【代理出席】名張警察署交通課係長)

森 慶之 (国土交通省中部運輸局三重運輸支局首席運輸企画専門官)

木村 禎志 (【代理出席】三重県地域連携・交通部交通政策課係長)

伊集院 時仁 (名張市都市整備部部長)

野口 泰弘 (名張市地域環境部部長)

(2) オブザーバー

小倉 宏基 (三重交通株式会社伊賀営業所総務係長兼営業係長)

(3) 事務局

都市整備部 都市計画室 4名

会議の公開・非公開：公開

傍聴人：0名

1. あいさつ

会長：皆さま、引き続きよろしくお願いいたします。

2. 協議案件

【事務局より資料に基づいて説明】

(1) 薦原コミュニティバス「コモコモ号」及び「コモコモらいど」の本格運行について 【法定会議資料1】

委員：コモコモらいどについて、現在17名登録がある中、4名程度の利用とのことだがタクシー会社からするとよく頑張って仕事をした人の1日分です。

半年分の仕事と考えるとこの4名の方以外にもっと増えないのかと少し寂しく思う。

センター職員以外で運転手をまかなえているというが、これぐらいの回数だとこの方々に何らかの補償等あるのか継続できるのか。補助金等を使用するはいいが、有効な形でないと後々市民の方から意見が出でくると思う。

これを一つの見本にすると、他地区でも同じようなことが起きてくる。

僅かな人のために強烈なお金を使いましょうということになってしまわないか怖さもある。

事務局：17名登録しているが4名しか利用していない中で、本格運行に向けて乗り合い促進やもっと周知をしていかなければならないと考えている。

利用促進として資料P12にある、1回目のハードルを下げるということで無料券配布やオペレーターやドライバーから利用可能性がある人へのアプローチを行っていく。

実際に、地域の方が住民の姿をよく見ているのであの方に必要ではないかなど運営側からアプローチしていくといった

取組もしながら利用者拡大をしていきたいと考えている。

薦原での取組を他の地域にどのように活かしていくのかについては、地域特性が様々違うためこのままのやり方を展開していくということを事務局では今想定はしていない。

これも一つのやり方だということで、各地域特性に応じたいいやり方というのを作っていく形かなと思っている。

それを、どのようにやっていくかについては地域だけで考えるのではなく色々な主体が関わって自分達の地域にとっていい交通を考えていくのに今回人材育成事業を並行して行いました。

見本ではなく、薦原地域だからできたということがかなり多いところだと思っている。

今後、地域の特性に応じて各地域や色々な団体と話し合いながら進めていけたらと考えている。

事務局：資料P3のコモコモ号再編についての現行のところまで地域を3地区に別けてバスを運行してきた。

地域によっては、利用が1～2名もしくはなしといった状況の中バスをこれ以上運行することは非効率だということで地域の特性に合わせて公共ライドシェアを導入しました。

地域のドライバーがハンドルを握ることに対して、充分だとは言えないかもしれないが最低賃金レベルの報酬をお支払し運賃500円といった形でしております。

収支バランスを見ながら、報酬や運賃設定を行っています。

他の方にも利用してもらおうといったところで、地域全体のバランスを見ながら進めていきたいと思っています。

事務局：ご心配していただいたことを事務局も同じ様に考えています。

先程も説明しましたが、薦原地域だからこそできたと今回の一つのモデルだと思っています。

同じように、このテンプレートで他の地域でもできるとは思っていない。

色々な事業者とバランスを取りながらやっていくというのがこの公共交通会議の目的ですので、相談をさせてもらいながらやっていきたいと思っています。

ただ、人口減少や免許返納者が増えてはいるが運転もまだできるといった中で、デマンドをする程危機的状況ではない隙間のような状態であると思います。

一つ一つ慎重に状況を見ながら考えていかなければならない状態だと思っているので、ご理解ご協力をお願いします。

会長：委員が言ったことは、とても重要です。

税金を使ってやっていることなので、色々事業に対して説明責任が問われてくる時代である。

そうなった場合に、本当にこの人数で運行していく中で説明責任を果せるのかというのは大きなところですよ。

簡単に言えば、いつまでどの程度まで運行するのか決めておかないといけなと費用に対する効果が出てこない。

尚且つこういう運行はできないからタクシーチケットを配っているという地域もあるのでそういったことも念頭に置きながら検討していかなければならないと思う。

また、そういったところも今のうちに計画の中へ目標値だけではなくどこまでいったらこの運行は改善するのか辞めるのかといったことをはっきりとさせておかないと、いざ何かの時に説明責任を果たせないといったことになってしまうのでそういったことだけは避ける必要があると思います。

委員：人材育成事業について、人材が育ってきていると思うが、コモコモ号に対して育成した人材がどの程度役立つのか、またお互いに協力しようとする人はいるのかどうか。

事務局：人材育成事業の中でも、地域コミュニティバスの方を対象にした研修も行いました。交通は、やはり社会基盤と言われる程町の活性化にとってはとても大事なことです。

また、高齢化社会を迎えるにあたって、健康であるということも大事位置づけであるといったところをみなさん再認識してもらえた。自分たちが地域の交通を守っていくという意識の調整や士気を上げるといったところをこの人材育成事業で行えたかと思っています。

会長：本協議について、承認としてよいか。(了)

3. その他

委員：ナッキー号妊娠・子ども・子育て応援キャンペーン延長について別途会議開催するのか。

事務局：書面で行います。